

第7回：長期のマクロ経済分析 —古い成長モデルと新しい成長モデル— (第6回の続き)

担当者：佐々木 啓明*

*京都大学経済学研究科. E-mail: sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp

ーカレツキ・モデルー

カレツキ・モデルの特徴.

1. 価格 p はマークアップ・プライシングで決まる.
2. 稼働率 u は内生変数.
3. 実質賃金 w/p と利潤率 r は必ずしも対抗関係にない.

■ 価格の決定

$$p = (1 + \theta) \frac{w}{T}. \quad (1)$$

これは

「カレツキ・モデルでは利潤シェア m が一定となる」
 ということの意味する → なぜか？

■ 利潤率の分解

$$\begin{aligned} r &= \frac{\Pi}{pK} = \frac{\Pi}{pK} \times \frac{Y}{Y} = \frac{\Pi}{pY} \times \frac{Y}{K} \\ &= \frac{\text{Nominal Profit}}{\text{Nominal national income}} \times \text{Capacity utilization rate} \\ &= m \times u. \end{aligned} \quad (2)$$

■ 貯蓄関数と投資関数

$$g_s = s_c r = s_c m u, \quad (3)$$

$$g_i = \alpha + \beta u, \quad \alpha > 0, \beta > 0. \quad (4)$$

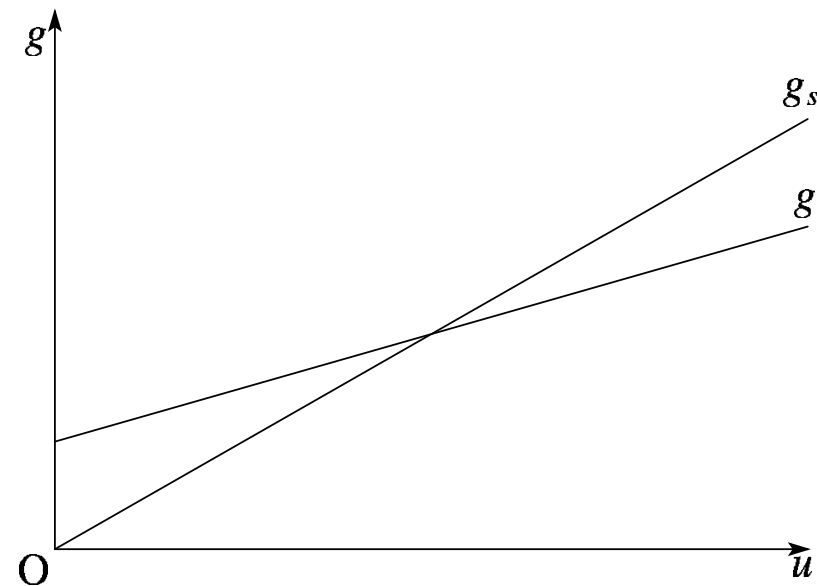


Figure 1: カレツキ・モデルにおける均衡の決定

■ 倏約の逆説と費用の逆説

1. 資本家の貯蓄率 s_c が上昇すると何が起きるか？
2. 実質賃金 w/p が上昇すると何が起きるか？

■ カレツキモデルの背後で生じていること

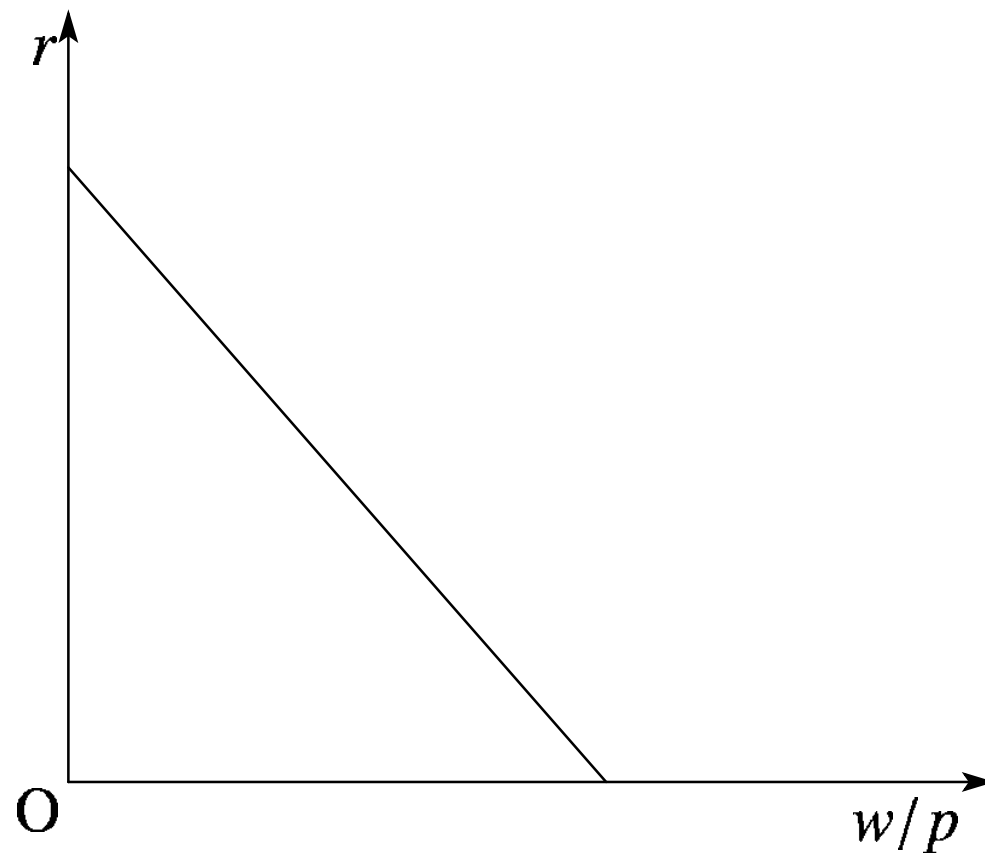


Figure 2: 利潤率と実質賃金の関係